

ことわざだより

新年あけましておめでとうございます
 皆様には健やかに新春を迎えられたこと
 お慶び申し上げます。

昨年は、20周年を迎えた年でした
 今年は、更なる「成長」(make progress)し、
 今まで以上に喜ばれる「こと京都」を目指し
 皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げます
 本年も宜しくお願い致します

山田 敏詩
とし ゆき

こと京都人宣言

—— ことグループを創る、私たちの「らしさ」 ——

- 一、相手が誰であれ、温かみのある笑顔で接します
- 二、お互いを認め合い、異なる考え方を排除しません
- 三、挑戦し続け、どのような状況でも楽しみながら成長します
- 四、問題は自分に原因があると考え、他人を責めません
- 五、落ちているゴミは拾い、困っている仲間がいたら助けます
- 六、全ての物事への感謝の心を、いつも忘れません
- 七、品格ある農業者となり、日本の農業新時代を開きます

今月の ことねぎ

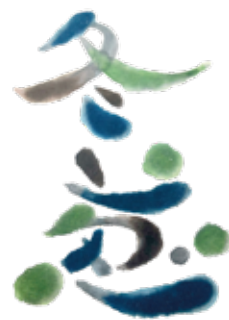
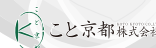
今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

九条ねぎの旬の季節、冬葱のお届けです

亀岡・市内で6月から7月にかけて定植し、夏頃に育ったものを根を残して一度収穫し、根本から育った二作目のねぎが多いです。軟腐病に苦しまされる時期で、一部の圃場では二作目で株が消えてしまったり、多いものだと全体の3割程度消えてしまいます。生き残ったねぎたちは、いつもより養分をもらえたおかげかすくすくと生育し、色の濃い立派なねぎに育ちました。見た目はもちろん、寒さで蓄えた「あん」の重さもたっぷりな旬の冬葱たちです。お楽しみください。



NO.188
 2023年1月号
 TEL: 075-601-0668



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業!の現場の「こと」を発信



雪の降る丹後圃場での様子

昨年同様、今年も丹後では雪が降り、美山・亀岡では霜被害が出て、収穫できないものもありました。そうならないようにと、ビニール・不織布でねぎを覆い、雪や寒さからねぎを守るよう、農人一同協力して急ピッチで被覆を実施。ただ、全ての圃場を守ることができないため、冬栽培の難しさを改めて感じています。陽も出ず気温も低く、大半の雪の塊が葱に乗っている状態です。これが続くと雪が氷に変わり、葉が焼けたりさらに倒伏し、ベタごけの状態になってしまうことを懸念しています。



雪はまだまだ溶ける気配もなく、圃場での作業も出来ないので工場の調整作業に入ることも。ひやっとして決して暖かくない工場内にて冷たいねぎを扱うと、途中から指先がかじかんで感覚が無くなってきます。バケツにお湯を溜め、時々指先を温めながらの作業。工場作業に入る機会が増えるの見込み、畑での作業と同じく、フィールドは違えど生産性を目指します！

とある日の農人日記。

12月半ば、市内圃場では日中平均気温が10度を下回る日が増えネギの生育も穏やかに開始してきました。この季節の朝、畑に霜の降りる頻度は更に増えていくので、霜に負けない強い株作りも目指していきます。(市内エリア・池島)



こと京都は
 「野菜を食べてよう」
 プロジェクトの
 サポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。